

月刊 新翔タイムズ

第50号
新翔タイムズ
編集室
発行・熊野新聞社

生活習慣の大切さ説く 2学期始業式で竹村校長



8月27日から2学期が始まった。竹村校長は「写真1は式辞の中で、立派な社会人になるために、希望する会社・企業に就職するために、学校生活におけるルールの遵守、とりわけ服装や頭髪のルールを守ることが大切であり、あいさつを含めた基本的な生活習慣の大切さを生徒に訴えた。1年生には進路選択・系列選択の決定をする時、2年生は修学旅行に備えた準備や文化祭行事への関わりのある時、3年生にとっては、進路決定の大事な時である」と、2学期を最も大切な学期と位置づけた。

育友会役員らも協力し 毎月恒例の「朝の声かけ運動」

8月27日から1週間、朝の声かけ運動を実施した。毎月行っている登下校指導の一環だが、今回は2学期の始業であることから、育友会の役員の方々に協力を得て、新宮市教育委員会主催の「さわやか朝の声かけ運動」、新宮警察署交通課による交通安全指導も併せて行われ、佐野駅、ナカミチや学校前の交差点、校門などで、大勢の方々が生徒達とあいさつを交わしながら、マナーや交通安全、服装・頭髪の徹底を呼び掛けた。



観光甲子園で「特別賞」受賞

地元の観光プランで日本一を競い合う第4回全国高校生観光甲子園(同大会組織委員会主催)で、観光5学が地域文化系列の生徒5人が作成したプラン「むっちゃんえげー清流王国 古座川に住もう！〜人の優しさ・自然の美しさを味わう3泊4日田舎暮らし体験 荒尾重輝君、辻翔馬君、赤路純奈さん、濱地杏奈さん」が特別賞(西宮市教育委員会賞)を受賞した。新翔高校は、第1回コンテストから4年連続で応募しており、今年は76校から158のプランが提出され、受賞した。



「あかんもんはあかん」 1年生対象に非行防止教室

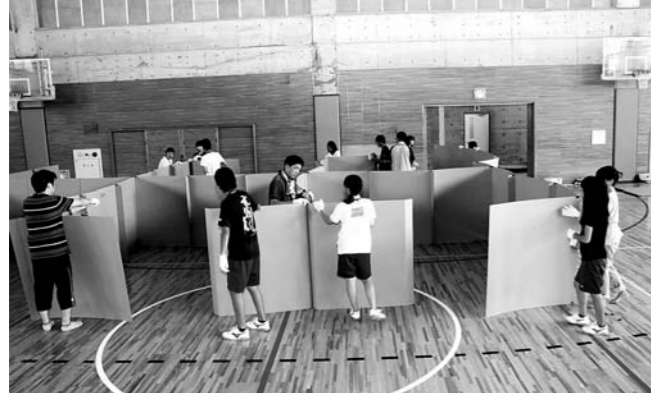
9月6日に、和歌山県という言葉から始まり、警察本部から石井文敏さん、少年による軽犯罪の件数が説明された後に、「いじめ」「携帯電話・インターネットの危険性」「非行防止教育を開いた。」「あかんもんはあかん」「窃盗」などを詳しく話していった。

「いじめ」の話では、その行為が恐喝、侮辱、強要、暴行、逮捕監禁など多くの犯罪行為に当たると、家族や学校、警察への相談の大切さを、「携帯電話・インターネットの危険性」では、架空請求メールや出会い系サイトの危険性を、それぞれ学んだ。「窃盗」については、10年以下の懲役、50万円以下の罰金で科せられることを知り、貴重品を自分でしっかりと管理しなければならぬことを再確認していった。

ボランティア(C)運営など体験

平成24年8月21日、本校で「平成24年度和歌山県高校生防災スクール(東牟婁会場)」が行われた。当日は、高校生105名、中学生6名他、新翔高校教員や各校の引率教員を含め約160名が参加した。さらに、聞き取り訓練では佐野区在住の47家庭にも協力してもらった。

その後、今回の防災スクールの新たな取り組みとして、災害ボランティアセンター運営訓練と聞き取り調査を実施した。そのセンターの運営スタッフには新翔生、それ以外の生徒は佐野区住民への聞き取り調査を実施するといったもので、各校から参加した生徒たちは、センターから訪問先の地図と調査用紙をもらい、指定された家庭を訪問した。生徒たちの中には慣れない土地で地図を見ながら訪問する班もあった。



本年度「高校生防災スクール」で



訪問後、センターに報告書を出し、随時昼食を取った。昼食は、新翔生による炊き出し配給訓練という形で実施され、生徒ホールでスタッフからアルファ米と飲料水の配給を受け、校内で各自昼食をとった。それと並行して、地震体験車による地震体験もあり、参加者は震度7の揺れを体験した。午後からは、キャリア実習室で普通救命講習I、体育館および武道場で防災実技講習が行われた。防災実技講習の搬送法や三角巾を使った応急手当でも新翔生がスタッフとなり、事前に学習した内容を参加者に教えた。スタッフたちは、普段教えられる側から今回は教える側になることで、緊張しながらも一生懸命教えていた。また、体育館では自衛隊の救助などの活動に関するパネルも紹介された。

ボランティアスクールへ



本校生徒2年生の7人は、「総合的な学習の時間」のキャリアアップのための取り組み活動の一つとして、夏休みに新宮市社会福祉協議会とみくまの支援学校主催のボランティアスクールにそれぞれ参加した。社会福祉協議会では、特別養護老人ホームや指定障害者支援施設や保育園を訪問した。そこでは、施設見学、利用者や園児たちとの触れ合い、作業などを一緒に行った。みくまの支援学校では、「障害のある子供たちの理解」の講座、「車いすの操作の仕方」「児童・生徒との交流」「学習障害の疑似体験」などに参加した。この2つのスクールを通じて、いろいろな方々と触れ合い、活動した中でこれから進路に向けての意識が更に高くなったと思う。



オープンスクール

2学年では「総合的な学習の時間」の科目において、「キャリアアップのための取り組み」を行っている。その一環として、夏休み中に進学希望の生徒のうち71名が各学校のオープンキャンパスに参加した。2校以上参加した生徒は15名、和歌山県内の学校に参加した生徒は17名。その他大半の生徒が京阪神・中京地方の学校に参加。中には東北地方や関東の学校まで足を延ばした生徒も。生徒からの感想では、パンフレットなどだけでは分からない情報を得ることができ、参加してよかったというところが多かった。生徒の感想から抜粋したものを紹介する。

「他の学校の人たちと交流ができ、また実際の学生さんとも話をさせてもらいとても良い経験になりました。今の自分ではとても受かりそうにならな学校だけど、今回の経験でこの学校に行きたいという意志がさらに強くなりました。だから今以上に苦しい教科を中心に勉強しなければいけないと思いました」

「実習の時に先生と在校生の方が一緒に教えるのがうらやましいところだったので、いろいろなことを踏まえて考えたいと思います」